

## 久保亮五先生

鈴木増雄（物理）

この4月1日に停年退官される久保先生は、言うまでもなく、統計力学、特に非平衡統計力学の世界的第一人者であり、久保公式は、物性物理学に限らず、化学やその他多くの分野で、輸送現象とゆらぎを議論するときの出発点になる一般公式で、非常によく使われています。この輝かしい業績に対して、昭和48年度文化勲章

を、昭和53年には、国際的な賞であるボルツマン賞を受賞されました。その他、学士院恩賜賞、仁科賞、松永賞、藤原賞等多くの賞を受けられました。

先生のお仕事は、物性物理全般にわたっており、上記の不可逆過程の理論の他に、ゴム弾性の理論、磁性の理論、特に磁気共鳴吸収の一般

論、金属微粒子の理論、非線型非平衡系における示量性の仮設の提唱、二次光学過程の確率論的取り扱い等数多くあります。それぞれ皆、パイオニアとしてのご研究で、それらはその後の発展に大きな貢献をしてきました。

久保先生は、学部及び大学院の教育を通して研究者の育成に尽力されると共に、学会や研究会で、講演者に対し、非常に基本的な問いかけと適切なコメントをされて、国内の研究水準向上にも尽くされてきました。その間、理学部長、物理学会委員長、学術会議委員、学術審議会委員、IUPAP 委員として、国内・外の科学行政にも熱意を示され、又、物理教室会議や理学部教授会では、広い視野に立ち、将来を見通した発言をされ、舵通りの役を果たしてこられました。

先生の講義は、近視眼的に部分的理解をするのが困難で、全体を眺めてやっと理解できる、大変芸術的なものとの定評があります。試験もきびしく、何度も追試をすることで有名でした。また久保研究室の院生に対して、夜遅く、難かしい研究テーマを出されて、翌朝早速、「あれ、どうなりましたか」と聞かれるので、これでは寝る暇もないと驚いた弟子達も多いと語り草になっています。

先生は、中学時代は文学か哲学が志望だったそうですが、中国文学者で台北帝大教授だった父久保天随氏に勧められて、理科を、それも純粹さにひかれて物理を選んだそうです。実際、先生は、大変格調の高い、含蓄の深い文章をお書きになることで有名です。久保先生は、幅広い読書家で、何かにつけ、物理以外にも私達教えられることが多かったと思います。先生は趣味も豊かで、静かに音楽を聞いたり、時にはひとりピアノをひいて楽しまれたり、絵筆をとってキャンパスに向かっておられたり、どこまでも純粹さを愛する方です。先生が海外出張の時、忙しい会議の暇をみてスケッチされた絵

を原画にして奥様が版画にされた年賀ハガキは、素人の域を出たもので、それを毎年頂戴するのを私達楽しみにしております。

久保先生は、大変人情深く、大から小まで何でも親切に相談にのって下さり、多くの人から慕われています。また、記憶力も抜群で、物理以外のことでも、ご相談した件の経過、処理について先生ご自身から時にふれ、お尋ねになることも多く、私達大変恐縮しております。私共、奥様にも大変お世話になりました。パーティのあとなどで、夜遅く先生のお宅に大勢で押しかけることも多く、いつも明るく迎えて頂き、感謝しております。特に、恒例になっている正月5日の先生宅での新年会は、大変にぎやかで、先輩や後輩とも一年ぶりに顔を合わせ、旧交を暖める絶好の場となっています。

先生は、還歴を迎えられた方とはとても思えない程若々しく、依然研究も熱心に続けておられるし、退官されるのはもったいない位です。久保理論を教科書で知っている外国の若い人に Prof. Kubo の話をすると、まだ健在かどびっくりするし、国内で先生の元気のよいご様子を拝見している人々には、先生が今年停年とは信じられないそうです。

久保先生は、東大を退官された後も、研究、教育、科学行政にと大いに活躍されることと思います。今までご指導下さいましたことを深く感謝すると共に、先生のご健康を祈って筆を置きます。